

多様な主体が一丸となって脱炭素社会へ



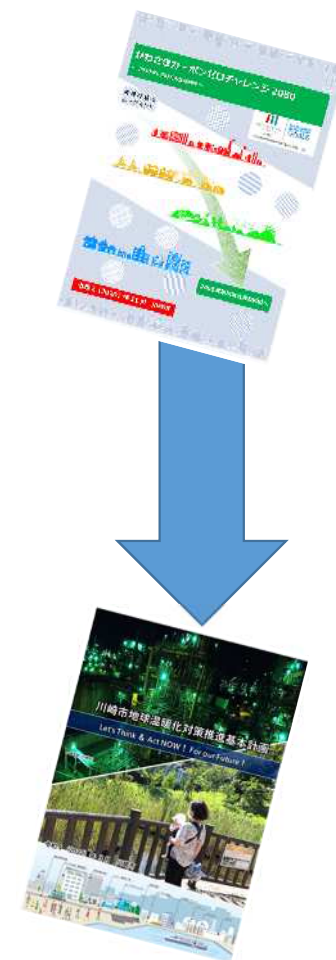
川崎市長 福田 紀彦

1 改定目的



(1) 計画改定の目的

- 本市は、2020年11月に脱炭素戦略
「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」
を策定し脱炭素化の取組をスタート
- このたび、脱炭素化の取組を一層加速化
させるため、
「川崎市地球温暖化対策推進基本計画」
を策定し具体的な更なるチャレンジを推進



2 計画のポイント①



Point 2030年度の削減目標等の設定【第4章】

※温室効果ガス等削減目標

市域目標

市域全体

2030年度までに**▲50%削減**（2013年度比）

※1990年比**▲57%削減**

民生系目標 2030年度までに**▲45%以上削減**（2013年度比）
（民生家庭・民生業務）

産業系目標 2030年度までに**▲50%以上削減**（2013年度比）
（産業・エネルギー転換・工業プロセス）

市役所目標

市役所目標 2030年度までに**▲50%以上削減**（2013年度比）
（市公共施設全体）

再エネ目標

再エネ目標 2030年度までに**33万kW以上導入**
（市域全体、2020年度実績20万kW）



2 計画のポイント②



Point 施策の強化と5大プロジェクト【第6章】【実施計画】

No.	プロジェクト名	主な事業
PJ 1 再エネ 	地域エネルギー会社等の新たなプラットフォーム設立による地域の再エネ普及促進PJ	・ 地域エネルギー会社等の新たなプラットフォームを設立し、市域の再エネ利用を拡大
PJ 2 産業系 	川崎臨海部のカーボンニュートラル化・市内産業のグリーンイノベーション推進PJ	・ 川崎カーボンニュートラルコンビナート構想に向けた取組 ・ 市内産業のグリーンイノベーション推進に向けた網羅的取組など
PJ 3 民生系 	市民・事業者の行動変容・再エネ普及等促進PJ	・ 家庭から排出されたプラスチック製品の一括回収に向けた取組 ・ 脱炭素モデル地区の展開及び脱炭素先行地域づくりなど
PJ 4 交通系 	交通環境の脱炭素化に向けた次世代自動車等促進PJ	・ 世界初EVタンカー船就航やEVカーシェアリングなど、交通分野の脱炭素化に向けた取組
PJ 5 市役所 	市公共施設の再エネ100%電力導入等の公共施設脱炭素化PJ	・ 2030年度までに全ての市公共施設へ再エネ100%電力を導入するとともに、設置可能な施設の半数に太陽光発電設備を導入など

3 脱炭素社会の実現に向けて

基本理念

「将来世代にわたって安心して暮らせる脱炭素なまちづくり」と
「環境と経済の好循環による持続可能で力強い産業づくり」に挑戦



⇒あらゆる主体が**危機感を共有**し、2050年の脱炭素社会の実現に向けて、市民・事業者・行政が一丸となって取組を加速していく必要があります！

脱炭素先行地域

2030年度までにCO2排出実質ゼロを目指す「**脱炭素先行地域**」として、川崎市を含む26件を国が選定！！



推進体制（プラットフォーム）

「**CC川崎エコ会議**」を中心とした推進体制のもと、チャレンジを期待！

CC川崎エコ会議

企業・団体・大学など多様な主体が参画する推進組織

川崎市地球温暖化
防止活動推進センター
／川崎市地球温暖化
防止活動推進員

連携

川崎市環境行政・温
暖化対策推進総合調
整会議

4 CC川崎エコ会議から広げる脱炭素アクション



賛同から具体的なアクションへ

○ かわさきカーボンゼロチャレンジ2050「賛同書」提出事業者などを中心に、「SDGsゴールドパートナー」とも連携し、事業者等の**具体的なアクション**へ

例えば、

- ・ 脱炭素行動宣言
- ・ 市民・企業とともに**数値目標の進捗管理**
- ・ 宣言企業等の取組状況について報告 など



市民・事業者・行政など
多様な皆様と一丸となった
「脱炭素社会」の実現に向けた
チャレンジを期待します！

